

# 産業構造の変化

昭和四十八年（一九七三）十二月、  
おりからの「石油危機」で世界の景気  
が大きく落ち込み、「モノづくりの町  
小松」にも深刻な影響が及んでいる中、

県と市が開発した小松市工業団地二丁  
目で、一五の企業が結集して「小松鉄  
工団地協同組合」が発足した。  
これは小松製作所をはじめ、機械、



小松工業団地

鉄鋼、繊維等の企業が活発に活動して  
きた市の企業集積をさらに促進し、不  
況を乗り越え近接する空港、高速道路、  
鉄道等の交通ネットワークを利用した  
「臨空産業都市」へと飛躍させること  
を眼目として企画されたものであった。  
同組合は「信頼・協調・公平」を綱  
領に掲げ、官民協同の下で地域産業の  
振興に邁進し、最終的に六七万五〇〇  
〇平方メートル、四九区画の団地が完成した  
のは昭和五十六年三月で、組合員の会  
社数も一八社に増加していた。

さらに石川県と小松市は、JR粟津  
駅と空港に近接して、四一万一〇〇〇  
平方メートル、一五区画の「南部工業団地」  
を整備し、企業誘致に努めた結果、ジ  
エイ・バスをはじめ多数の優良企業が  
集結し、また加賀産業道路に面して県



東部工業団地



矢田野工業団地



串・南部工業団地

都金沢へのアクセス等も良好な国府台の丘陵地に四五万九〇〇〇平方メートル、二〇区画の「東部産業振興団地」を造成し、ここでも積極的な企業誘致に努めた結果、平成十八年三月で全ての区画が分譲完売した。

そのため、新たに国道八号線と建設

中の南加賀道路（八号線小松バイパスの二ツ梨インターと北陸自動車道片山津インター）及び空港を結ぶ線）に面して七万三〇〇〇平方メートル、3区画の「矢田野工業団地」、また「南部工業団地」と道路を挟んで二〇万四〇〇〇平方メートルの「串地区工業団地」も造成し、インター

ネットの動画サイトで企業誘致に乗り出すなど、新機軸の広報活動を展開した。これらの新工業団地群は、環境対策ISOの適合等、臨空産業都市小松の未来を担うことが期待されている。

（平野 優）